

令和5年度小国町商工会経営発達支援事業評価検討委員会議事録

- 1 開催日時 令和6年3月26日（火）午後3時～午後4時
- 2 開催場所 山形県西置賜郡小国町大字小国町163 小国町商工会研修室
- 3 出席者数 7名
- 4 出席者名 外部有識者
 - ・山形銀行小国支店長 北村潤氏
 - ・山形中央信用組合小国支店長 岡田祐二氏
 - ・小国町産業振興課長 磯部俊二氏小国町商工会
 - ・会長 伊藤通芳
 - ・副会長 木下三千男
 - ・事務局長 後藤和人
 - ・商工振興課長 佐藤勝則

5 議事の経過と結果

定刻に至り、後藤和人事務局長が令和5年度経営発達支援事業評価検討委員会の開会を告げた後、伊藤通芳商工会長が挨拶を述べた。

次に、後藤事務局長は、座長に伊藤商工会長を指名し協議に入った。

■協議事項1 令和5年度経営発達支援事業の実施状況について

座長は、協議事項1について事務局の説明を求め、佐藤課長が事業評価書に基づき説明した。

■協議事項2 各事業の評価・検証について

座長は、今年度の取り組みについて事業項目ごとに質疑を求めた。各委員からの評価等については次のとおりである。

<事業項目1 地域の経済動向調査に関すること>

北村委員は、地域経済データの収集および調査事業における公表として目標通りの実績を評価すると述べた。合わせて、岡田委員からも同意見が添えられ、情報収集が取りづらい小規模事業者のためにも継続してほしい旨の意見をいただき評価を得た。

<事業項目2 需要動向調査に関すること>

北村委員は、町内ニーズ調査ができなかった理由について質問した。

佐藤課長は、自慢の逸品事業を行なう上で参加事業者に対するアンケートを見込んでいたが、コロナ影響や物価高騰等に対する経済対策をはじめ、事業環境変化に対する関係業務を優先せざるを得ず見送ったことを説明し、取り組み意思があることを伝え理解を得た。

また、町外ニーズ調査については、特に意見が無く、目標達成にあることで評価を得た。

<事業項目3 経営状況の分析>

岡田委員は、経営分析にあたった事業承継先の概要について質問した。

佐藤課長は、事業承継先として現在3件あり、承継問題はシビアな点があるため業種の説明に留めながら時間を要する支援スタンスにあることを説明し理解を得た。

また、佐藤課長は、補足として昨年度に課題提起された分析ツール「ローカルベンチマーク」の活用に触れ、今年度の状況を説明した。

国推奨の分析ツール「ロカベン」は昨年度3者活用し、その実用性を得られたが、今年度においては、時間的制約などからSWOT分析、ABC分析などを活用したことを説明した上で、分析目標20者に対し、13者の実績結果について一定の評価を得た。

<事業項目4 事業計画策定支援に関すること>

磯部委員は、事業計画策定上で活用した各補助金の概要について質問した。

佐藤課長は、販路開拓に資する補助金を活用しており、事業計画策定に伴う前向きな活用支援に対応していると説明し理解を得た。

また、磯部委員は、事業計画策定上で開催したDXセミナーの概要について質問した。

佐藤課長は、DXとは経営課題とデジタル化を掛け合わせたテーマであり、課題把握の数だけ戦略が生まれるとし、今年度は、小規模事業者に合わせてスマホやパソコンを使った生産性向上に資するセミナーであったことを説明し理解を得た。

さらに、佐藤課長は、昨年度に課題提起された金融機関が開催するセミナーとの連携、個別相談の連携機会に触れ、今年度も金融機関担当者との連携機会があり事業者支援の共有化が図れたことを報告した上で、事業計画策定目標の12者に対し、10者の実績結果について一定の評価を得た。

<事業項目5 事業計画策定後の実施支援に関すること>

北村委員は、フォローアップ実行支援は、事業計画策定後も持続的発展に寄与する観点から重要であるため、継続支援に期待すると述べた。

磯部委員は、売上増加先が6者あり、昨年も同数の実績にあるが意識的な取り組みになっているものか、また、6者の成果概要について質問した。

佐藤課長は、フォローアップ対象者の半数を目途に目標設定しており、北村委員からあった実行支援の重要性を意識して取り組んだ成果であると説明した上で、6者の経営状況を補足説明し、その実績を評価いただいた。

<事業項目6 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること>

北村委員は、展示会等の参加支援ができなかった理由について質問した。

佐藤課長は、コロナ禍で数年参加できなかった流れで今年度も見送りに至った。当会としては連携強化先である地域総合商社と調整していきたいと答弁した。

磯部委員は、支援先である地域総合商社の現状に触れ、実際に展示会で売り込める商品企画に至らなかった経過と主要都市における直売会に特化してきた状況を説明した。

今後は、取引先ニーズと付加価値向上に対する意識の醸成を図り、商工会と調整していきたいと述べ、前向きに取り組む方向性を理解いただいた。

また、磯部委員は、ECサイトの取り組み概要について質問した。

佐藤課長は、県連合会主催のモール型ECサイト活用販路開拓支援事業において、当会が推薦した事業者を紹介した。出店先である楽天、ペイペイ、ラインギフト、ニッポンセレクトの各モール型サイトについて説明し、参加事業者は過去最高の業績にあることを報告し評価を得た。

<事業項目7 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること>

佐藤課長は、昨年度に課題提起されたホームページ公表に対し、アクセス数を調査しながら検証すべき点に触れ、今年度のアクセス状況を説明した。

総アクセス数が112%の伸びであったほか、経営発達支援事業サイトへのアクセスが増え会報周知とリンクさせた成果を報告した。

各委員からは、事業評価検証結果を会報やホームページで公表し、活用されていることで評価を得た。

<事業項目8 経営指導員等の資質向上等に関する事>

岡田委員は、経営指導員1人区の中、職員協力のもとで取り組んでいる状況が理解できる述べ、各委員からも評価を得た。

<事業項目9 他支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事>

特に意見はなく、関係機関との連携及び成果に対し評価を得た。

<事業項目10 地域経済の活性化に資する取り組み>

磯部委員は、魅力発信事業において、来年度、町では夏まつりを復活させる計画にあるため、商工会に対し協力を依頼した。また、地域総合商社との連携において、取引先となる各事業者のPR、販路開拓の面で商工会の支援に期待すると述べた。

北村委員は、地域経済活性化において、人手不足や組織の弱体化など課題が浮き彫りになって地域振興の取り組み方が難しくなっているが、地道でも継続的な取り組みに期待すると述べた。

各委員からは、地域経済活性化において、現状の理解と取り組み内容に対し評価を得た。

座長は、すべての評価が終了したことを告げ、午後4時00分に閉会した。